

令和7年3月4日

全員協議会 会議録 協議内容

◇会議録

- 1 日 時 令和7年3月4日(火)
開 会 14時45分 閉 会 15時32分
- 2 場 所 役場3階議場
- 3 出席者 議長 寺林俊幸
1 畠山美和 2 塚本逸彦 3 山端隆治
4 内山美穂子 5 小田新紀 6 長谷陽子
7 酒井はやみ 8 荒 貴賀 9 野原恵子
10 石川康弘 11 岡本眞利子 12 小島智恵
13 藤谷謹至 14 田口廣之 16 谷口和弥
17 藤原 孟 18 中橋友子
(以上18名)
- 4 事務局 局長 合田利信 課長 佐藤勝博 係長 菅原美栄子
- 5 協議事項 (1) 議員定数の見直しについて
- 6 協議内容 別紙

議長 寺林 俊幸

◇協議内容

(開会 14:45)

○議長（寺林俊幸） ただ今から、全員協議会を開催いたします。

議案の1、協議事項に入らせていただきます。

(1)議員定数の見直しについてを議題といたします。

本件は、現在、議会運営委員会で検討を進めておりますが、全議員が共通認識をもって検討すべき課題でありますことから、本日は、これまで議会運営委員会で示された参考資料を全議員で共有するとともに、限られた時間ではありますけれども、議員の皆さまから議員定数について、率直な意見やお考えをお聞きしたいと思っております。

はじめに、①参考資料について事務局の説明を求めます。

議会事務局長。

○事務局長（合田利信） 本日、7点の資料を用意しておりますので、要点のみ説明をさせていただきます。

資料1をご覧ください。

十勝管内の各町村議会における議員定数及び議員報酬の見直し、政務活動費の導入について、昨年11月1日現在の状況であります。

この表の下、欄外をご覧くださいと思います。調査結果をまとめて記載しております。

(1)見直し予定あり、検討を含む、としているのは、音更町、芽室町のほか、記載の6町村で、上の表では該当する町村に網掛けしています。

なお、見直しの意向がある8町村では、まだ具体的な人数、金額等が示されておりませんので、今後とも情報収集に努めてまいります。

続きまして、資料2をご覧くださいと思います。

類似団体の町議会の議員定数の状況であります。

上段に記載してありますとおり、1、総務省財政状況調査に基づく類似団体のうち、令和6年10月末現在の住基人口が幕別町の人口±10パーセント、22,796人以上27,861人未満の19町議会を抽出して作成しております。

類似団体とは、米印にありますが、人口2万人以上で、産業構造が幕別町と同じ類型となる第3次産業の就業人口60パーセント以上の団体であります。

次に、2、財政力指数は、令和4年度決算に基づく数値で、数値が大きいほど財政力が強い団体を示しており、財政力指数が1以上の団体は、通常、普通交付税の不交付団体となるとされております。

表の下、欄外をご覧くださいと思います。比較内容を記載しております。

(1)議員定数は、全ての団体で幕別町を下回っており、定数16人および14人としている議会が多い状況にあります。

(2)人口が幕別町より多いのは12団体で、少ないのは7団体であります。

(3)議員一人当たりの人口は、幕別町1,333人に対し、全ての団体が上回っています。

(4)類似19団体の議員1人当たりの人口数の平均値1,814人を基に、幕別町の議員数を算出すると、 $25,329人 \div 1,814人 = 13.96人$ 、約14人となります。

(5)議員1人当たりの行政面積は、最高値が北海道七飯町で、15.5平方キロメートル、最低値が奈良県王寺町で、0.6平方キロメートルであります。

(6)財政力指数は、全ての団体で幕別町を上回っております。

なお、財政力指数のみに着目した場合、幕別町の財政力指数0.35に対し、±0.1の団体は、全国に39あります。

議員定数の状況は、①定数18人が2団体、②定数17人が1団体、以下、記載のとおりであり、全ての町で、幕別町の議員定数を下回っております。

続きまして、資料3をご覧ください。

こちらの表は、全国に743ある全ての町議会の議員定数を住基人口ごとに、分布したもので、議員定数20人から順に最も少ない7人まで区分しております。

この資料の中段には、①定数20人から、⑭定数7人まで、定数ごとに、道内、道外の人口が最も多い自治体名を記載しており、十勝管内の自治体は、太字で表記しています。

下段の四角で囲った部分をご覧くださいと思います。まとめを記載しております。

(1)743町議会の約8割に当たる612の自治体は、人口20,000人未満であります。

(2)人口区分ごとの議員定数の平均値は、人口数に比例しており、①3万人以上の町は、平均15.4人、②2万人以上、3万人未満の町は14.4人、③1万人以上、2万人未満の町は13.2人、④1万人未満の町は10.5人であります。

(3)議員定数が最も多いのは、定数20人の音更町、次いで定数19人の幕別町ほか2町であります。

(4)人口2万人以上の131の町議会における議員一人当たりの人口では、最も多い町は、福岡県志免町で定数14人、一人当たり3,306人であり、幕別町1,337人は123番目、下から9番目であります。

(5)についてであります。昨年12月10日の議会運営委員会で提示した資料は、令和5年7月1日現在の状況でありましたが、今回は、令和6年7月1日現在のデータを基に作成しており、この1年間の間に、35の町議会で議員定数の見直しが行われております。

続きまして、資料4をご覧ください。

上段の表は、年度別の幕別町住民登録人口の推移であります。

表の横軸は、男性、女性別の人口と合計、前年比、幕別、札内、忠類の地域別の人口となっており、表の縦軸は、令和6年度、直近の令和7年1月末現在から、各年度の3月末日現在、一番下は旧忠類村と合併した平成17年度、平成18年3月末の数値となります。

合併時、平成17年度末の人口は、27,482人で、22年度から25年度末までは、増加傾向を示しておりますが、平成26年度末以降は、毎年、人口減少が続いております。

備考欄にありますように、平成26年度末から令和5年度末までの10年間では、2,247人減少しており、特に令和3年度末から5年度末の3年間では、964人減と約1,000人近く減少しています。

次に、二つ目の表をご覧ください。こちらは、幕別町の人口動態で、平成31年3月末から、令和6年3月末までの状況であります。

増加の欄の出生数と転入数については、令和6年3月末まで減少傾向にあり、一方で、減少の欄の死亡数は増加傾向、転出数は横ばいですが、出生数の減少と死亡数の増加が、人口減少の要因となっていることがわかります。

次に、三つ目の表をご覧ください。

こちらは、国立社会保障・人口問題研究所が、令和5年に推計した幕別町の将来推計人口であります。

2020年の国勢調査による実績値を基に、5年刻みで推計したもので、5年後の2030年は23,625人、10年後の2035年は22,401人と推計しています。

次に、一番下4、2030年（5年後）、2035年（10年後）の幕別町の人口推計であります。

こちらは、本町の人口動態の実績値を基に、事務局で推計したものでありますので、参考値として、お聞きいただきたいと思います。

本町の直近の令和7年1月末の人口は、25,230人で、今月と3月の2か月間の人口動態は、過去3年間の状況から、マイナス120人と予想し、①にありますように、令和6年度末である本年3月末の人口は、25,100人と推計するものであります。

次に②令和3年度末から6年度末までの4年間の人口減少数は、マイナス1,282人で、1年当たりでは、約300人が減少することとなっております。

③5年後の2030年は、1,500人減少し23,600人、④10年後の2035年も、1,500人減少し、22,100人となり、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口と近似値となるのではないかと事務局で推計したところであります。

続きまして、資料5をご覧くださいと思います。

こちらは、全国743の町議会のうち、行政面積が400平方キロメートル以上の自治体26町を抽出したもので、北海道内の自治体は含んでおりません。

行政面積が400平方キロメートル以上の自治体は、全国に26町あり、一番右側の列、議員一人当たりの行政面積が大きい順に並べております。

1番上の新潟県阿賀町、2番目の山形県小国町の議員一人当たりの行政面積は、本町の約3倍となっており、以下、26番目の高知県の町まで、全ての自治体で本町の議員一人当たりの行政面積を上回っています。

続きまして、資料6をご覧くださいと思います。

こちらは、北海道内129の町議会のうち、行政面積が400平方キロメートル以上の自治体、62町を抽出したもので、資料2と同様に一番右側の列、議員一人当たりの面積の大きい順に並べており、幕別町は61番目、下から2番目という状況であります。

また、十勝管内の自治体名に網掛けをしており、欄外には行政面積が400平方キロメートル未満の3町2村の議員一人当たりの行政面積をカッコ内に記載していますが、十勝管内で比較した場合は、本町は、18町村中15番目となります。

最後に、資料7をご覧くださいと思います。

こちらは、全国743の町議会のうち、平成18年以降に合併し、令和6年10月末現在の人口が20,000人以上、35,000人未満の9町議会の議員定数等の状況であります。

表の構成であります。左側の欄から、都道府県名、合併後の町名、人口、合併年月日、合併種別、合併前の議員定数、合併時の議員定数A、現在の議員定数B、定数減の状況、摘要となっており、人口順に並べております。

下段の欄外をご覧ください。

(1)本町と人口規模が類似する青森県おいらせ町と和歌山県有田川町の現議員定数は、16人です。

(2)香川県綾川町および北海道新ひだか町は、令和7年3月、議員定数を16人から14人へ改正する予定であります。

以上、資料の説明は終わります。

○議長（寺林俊幸） 説明が終わりましたので、参考資料について、ご質問等がございま

したら、挙手をお願いいたします。

(なしの声あり)

- 議長(寺林俊幸) 質問がないようですので、参考資料についてはこのとおりといたします。

次に、②各議員の意見・考えについてでありますけれども、各議員から意見・考え方をお聞きする前に、議員定数のあり方についてのご意見等がある方は、挙手をお願いいたします。

野原議員。

- 9番(野原恵子) 地方議員は、住民の意見に行政に反映させる役割があると同時に、行政執行機関のチェック機能を果たすという大きな役割を持っていると思います。議員の人数は、先ほど資料で示されたように、人数、それから人口、面積と基準としておりますけれども、それだけではなくて、議会制民主主義を進めていく上で、議員の人数を定めていくということが必要と考えます。人数が少なくなりますと、住民と行政のパイプを細めることになりかねません。また、幕別町は合併した町として、20年経過しておりますけれども、独自の課題はまだ残っております。その責任を果たすためにも、地域全体を視野に入れて、議論を深めていくことです。そのためにも今の定数が必要と考えております。

- 議長(寺林俊幸) ほかに議員の定数のあり方について、お考えのある方はいらっしゃいませんか。挙手をお願いいたします。今お聞きしているのは、議員定数のあり方について、個々のお考えもあるかと思っておりますけれども、幕別町議会としてどうあるべきなのかという基本的な考えがある方は挙手をお願いしたいというお話をしているのですけれども。

酒井議員。

- 7番(酒井はやみ) 今の段階では、現在の定数を維持するか減らすかということ言えば、維持するべきだと考えます。今減らすという結論を出すことについては、議会としては慎重に考えていく必要があると思うからです。人口の割合で各自治体の状況を出していただいたのですが、同規模の自治体はもっと人数が少ないからということでは理由にはならないと思います。それぞれの自治体の議会が、そこでの議会の役割をどう発揮していきたいのかということから考えていかなければならないと思いますし、今の段階で、現状の19人で何か支障があるかということがはっきりしていないと思います。むしろ今は数が多すぎるという実感もなく、各常任委員会も委員長含めて五、六人いることで多彩な意見が出され、議論が深まっていると思いますし、一定数の議員がいることで、町民にとっても身近な存在として、議員の存在が受け止められているのではないかなど、そういう点では、幕別町議会の優位性でもあると感じています。逆に減らすというメッセージを議会が決めて、町民に発することになると、議会の役割をどういう存在として、考えているのかということについて、町民からも議員はそんなに必要ではないのではないかという発想に捉えられかねなかったり、これから女性とか若い人など多彩な人たちが議員になってもらう上でも、その枠を狭めていくことにもつながってはないかと思っています。議員を減らすことのメリットとして、何かあるかということですが、議会費の予算を減らすことにつながる、効率化が図られるということが挙げられるかなと思ったのですが、それについて資料は特に出しておりませんので、全体の議会費の推移や議員定数を減らしたところの議会費の割合なども併せて検討していく必要

があるのではないかと思います。

○議長（寺林俊幸） 意見をお聞きする前に、説明が足りなかったかと思っています。基本的な考え方をお聞かせいただいたあとに、それぞれ各議員の議員定数についてのお考えをお聞きしていきたいと思っておりますけれども、冒頭、根本的にこうあるべきであろうという意見があればお聞きしたいと考えております。

先に、お伝えしておくのですが、本日限られた時間の中で進めております。決して、時間がないからみなさんのご意見を伺わないということはしたくないと思って、進めてまいりたいと考えておりますけれども、内容については簡潔によりしくお願い申し上げます。

谷口議員。

16番（谷口和弥） 考え方をどうするかという問いが議長からされたわけでありまして。答えはそんなに多くないのだと思うのです。私たちは議会基本条例というものを議員のあり方の最高規範として持っている、そういう議会であります。議会基本条例が遵守されることが何より大事なことであります。以前に配布された資料の中にありますが、議会基本条例第18条の中にその答えがあるのではないかなと思っています。第18条これを見た上で、全員協議会に各議員が参加するというのが大事なのだと思います。

以上です。

○議長（寺林俊幸） ほかにありませんか。

荒議員。

○8番（荒貴賀） 考え方としては、議員定数を維持することが必要だと感じています。今の現状を考えたときに、削減をするということではなくて、議会としてどのように住民の方に理解してもらえるのか、さらには議会としての役割を發揮できるのかということを中心に考えることが大事だと思っております。

○議長（寺林俊幸） ほかにありませんか。

（なしの声あり）

○議長（寺林俊幸） ほかに定数のあり方についての基本的な考えについての意見がないようでしたら、それぞれの議員の皆さんに議員定数についてのあり方についてお伺いをしていきたいと思っております。私が、議席順に各議員を指名しますので、指名された議員は、議員定数について、現状維持、増員という考え方もあるかと思っておりますけれども、削減、それぞれの考えを理由を含めて、時間を限らせていただきますけれども、一人二、三分以内で、簡潔に述べていただきたいと思います。

それでは、1番の畠山議員。

○1番（畠山美和） 大変難しい問題だと思っておりますけれども、個人的には議員定数を削減して、適正な数字はわからないですけれども、削減することによって、意思決定が迅速化したり、議論の質も向上するかと思っております。ただ、議員数が減ることによって民意の反映が損なわれてくるリスクもあるので、私個人としては若干、現時点では議員数が多く感じています。なので、削減でいいと思っております。

○議長（寺林俊幸） 次に、2番塚本議員。

○2番（塚本逸彦） 昨今の人口減少による状況を見ても、削減のほうに向いていると思います。我が町においても人口減少の点から言えば、財政的な面から言えば増加という話にはならないと思います。私のほうでは、ある程度の削減はやむなし、その中で議員活動を町民にも理解していただけるように活動していくことが大事ではないかと思

います。

○議長（寺林俊幸） 3番、山端議員。

○3番（山端隆治） 私は議員定数の削減を申し述べたいと思います。無投票で選挙がなかったということで、現実には1人減っていますけれども、実際の人数を何人減らすかは難しいけれども、できれば長い目で見て、もう少しスリムにしたほうがいいと思っています。

○議長（寺林俊幸） 4番、内山議員。

○4番（内山美穂子） 私は、削減です。町民の幅広い意見を聞いて、反映させ、多様な人材が選挙に立候補できるということを考えると懸念は残ります。ですが、先ほど出ましたが、議会基本条例第18条を考えますと、類似団体との比較、検討を抜きに具体的な検討にならないかと思っています。先ほど説明あったのですけれども、類似団体との比較では、幕別町が人口に対しての定数が一番多い反面、財政力指数が一番低くなっているのが現状です。さらに人口についても、先ほど説明ありましたが、今後毎年300人以上の人口が減少していくということで推移しているという社人研の推計値も出ております。そこで、中長期的な視点に立たなければならないと考えています。今後社会保障費が増大し、公共施設の更新、交付税の減額が見込まれる厳しい財政状況を見ると、町民が暮らしやすいかつ持続可能なまちづくりを進めていかなければならないと思います。そのためには、町民の理解を得ながら、自ら身を引き締める覚悟で、自助努力をしなければならぬと考え、よって定数の削減は避けられないのではないかと思います。

○議長（寺林俊幸） 5番、小田議員。

○5番（小田新紀） 私は、現状維持という意見を持っています。理由としては2点です。やはり、町政も多岐にわたった内容となっている中で、それぞれの議員が、さらに研さんを深めていくことは当然大事なんですけれども、やはり一人ひとりの力には限界がある部分もあります。さまざまな分野に長けた者が議員として、町政をより良くするための議論をしていく必要があると思っておりますし、実際に現場を知る人が入る必要があると思います。

2点目は、これからのまちづくりにおいて、若い人は大事になってくると思っております。今、議員の数を減らすということは、なかなか若い人、それから組織力として、成熟されていない方も含めて、なかなか門戸が狭くなってしまうという思いもあります。これから男女共同参画が進んでいく中で、さまざまなマイノリティの方も含めて、いろんな方が議員になっていく必要があると思っております。財政的な部分ももちろんあるのですけれども、お金がないということで人を減らすというサイクルはこれまでの歴史を振り返ってみても必ず衰退につながっていくと思っております。非常に微妙な問題であると思いますが、これからどんな町を作っていくかを考えたときに現状維持が最低限だと考えます。

○議長（寺林俊幸） 6番、長谷議員。

○6番（長谷陽子） 私は、定数減と思っています。今回、幕別町で初めて選挙がなかったのではないかと思います。すでに先ほども言ったように衰退は始まっていると思います。先ほど内山議員が言ったように、議員の数は多い、予算は本当にだんだん減っていきなるとなると、幕別町自体の維持がほかの十勝にしても、低い位置にいるのではないかと思います。それを立て直すためには、若い人の力も必要だろうし、議会の開催も土日とかそういうところにも目線を持って行って、若い人を取り込んでいかなければいけない

と思います。

- 議長（寺林俊幸） 7番、酒井議員。
- 7番（酒井はやみ） 先ほど発言させていただいたとおりです。
- 議長（寺林俊幸） 8番、荒議員。
- 8番（荒貴賀） 私は現在の議員定数は維持されるべきだと考えています。人口減少社会と言われていますが、市町村が持つ課題、地方分権の中で、個別計画が各自治体で策定されるなど、議員としての質、学習や研究が重要になってきています。いろんな人たちが、いろんな立場で、いろんな角度から議論し、行政をチェックすることが大変重要であり、現状維持して、議会活動をさらに活発化することが期待されます。
- 議長（寺林俊幸） 9番、野原議員。
- 9番（野原恵子） 議員の定数は現状でいくべきと考えます。この現状の中で、若い人たちが手を挙げて、多様な方々が議会に臨んでいくことが重要と考えます。
- 議長（寺林俊幸） 10番、石川議員。
- 10番（石川康弘） 私は、定数減の考え方です。この問題というのは、議員が考えるのはもちろんですが、町民がどう考えるのか、思っているのか、それを私たちは議員として、示していかなければいけないのだと思うのですよね。その上で、定数がどのくらいかは決まってくるかと思うが、当然今まで言われたように若い人たちや男女平等のこともあります。そういった人たちを議会に来ていただくことを考えると、議会のあり方を考えていかなければいけないと思いますし、私たちは基本的にはボランティア精神と言いますか、そういうことで考えて活動すべきだと思います。活動のあり方も吟味して、少数でもやっていけることを町民に示していかなければならないと考えております。
- 議長（寺林俊幸） 11番、岡本議員。
- 11番（岡本眞利子） 議員定数においては、どの議会でも大きな課題となっていると承知しているのですが、人口減少、少子高齢化が要因の一つとなっていると感じています。議員定数は、人口、面積等を勘案していることは承知しているのですが、全国の資料を見ましても、幕別町の人数は適正なのか、疑問を持つところです。議員とは、町民の代表であり、町民の声を行政に届けることと、行政のチェック機能という大きな役割を持つなか、役割を果たしているのかも疑問に感じているところです。また、議会活動においても、現状、委員会等の議論に活発に行われているかと考えると、難しいところもあり、今期の選挙においても定数は足りましたが、選挙には至らなかったという状況であります。その中で、次期選挙において大変危惧するところでもあります。このままでは住民が今の議員数が適正だと思われる方は何人くらいいるのかなと思い、この状況から考えても削減はやむを得ないと判断しました。
- 議長（寺林俊幸） 12番、小島議員。
- 12番（小島智恵） 私は、削減とさせていただきます。直近の2023年の町議選では幕別町で初めて、無投票当選となり、選挙がなかったこと。これは非常に大きなことだったと思います。その上で、いただいた資料を見ますと、類似19団体では、14人か16人で運営されているところが多くて、それ以上の定数は幕別町だけであり、削減はできるものだと思います。本町の人口は減少しており、推計人口でも減少していくことが推計されておりますし、財政力指数は非常に低く、類似団体の中でも一番低く、厳しい財政状況下にありまして、そういったことを鑑みまして、削減することが妥当であると思われました。

- 議長（寺林俊幸） 13番、藤谷議員。
- 13番（藤谷謹至） なかなか○か×かつけるのが難しいところではありますが、資料説明でいきますと、完全に×という判断をせざるを得ないところではありますけれども、ただ、議員定数、議員のなり手不足等を考えるときに、これ定数を減らして、若い人たちが町政、議会に参加することができるだろうか。議員報酬と言う部分で考えると、議員定数を減らしても報酬が上がれば、同じことではないかと、そういう懸念が残るわけです。そういうことでまず、合併前に30人いた議員が現在19人、議員定数はころころと変えるべきではないと思います。そして19人にした経緯というのをもう一度振り返って、慎重に議論すべきではないかと。私は今の時点では、○×はつけられません。汚いですが、そういう立場であります。
- 議長（寺林俊幸） 14番、田口議員。
- 14番（田口廣之） 僕の意見としては、現状維持かなと思っています。やはり幕別町は南北に長かったり、町から離れたへき地に住んでいる人も含めて、町民の声を広く聞くために、定数は減らすべきではないと思っています。やはり、誰かが町民一人ひとりと向き合っていくことに対しての思いがあるのであれば、定数は減らさないほうがいいかなと思っています。
- 16番（谷口和弥） 先ほど考え方のところで、述べさせていただきましたけれども、最高規範である議会基本条例に「議員の定数は、人口、面積、財政力及び町の事業課題並びに類似町村等との比較検討するとともに」と、総合的に決めるとされております。今示された資料では、幕別町が突出してと表現する部分もあるくらい、定数においては高い数値を示しているのではないかなと。答えは削減ということを前提に進めるべきではないかと思っています。
- 議長（寺林俊幸） 17番、藤原議員。
- 17番（藤原孟） 私は、増員でやるべきだと提案いたします。まず、常任委員会の人数が少ないのではないかと。3常任委員会にそれぞれ1人ずつで、3人の増員をすべきではないかと。それから今は、シニア民主主義という言い方で進んでいる。それをいかに現役世代を取り入れて、組織でない人たちが勇気をもって幕別町の行政に携わるために削減はしないで、逆に門戸を広げていく、そして出やすくする。ただし、報酬は下げて、少しでも財政負担にならないようにするということでまず、3名の増員を望みます。
- 議長（寺林俊幸） 18番、中橋議員。
- 18番（中橋友子） 私は、この議員定数の問題につきましてこれまで5回にわたって、定数の変更を体験してまいりました。その時に必ず出てくるのが、財政の問題であり、あるいは少数精鋭であり、活発な議論、町民に理解されるということが必ず議論されてきました。結果としてそういうことが十分に検証されて、次に進んだかと言うと、残念ながらそういった実感はありません。民主主義の学校と地方議会は言われていますが、多様な町民がいる以上、多様な方たちが、若い方も女性も、性的マイノリティの人たちも出やすい環境を作り、その中から活発な議論がされ、まちづくりに反映されたとて元気になる良いまちづくりになるのではないかと思っています。議会基本条例もつくる時に携わってきました。前段の人口や面積、財政力指数は当然のことですが、その後書いてある文章が非常に大事だと思い、改めて読み上げます。「多様な町民意を十分に反映でき、かつ、合議制の機関として活発な議論が可能となるよう、総合的な観点から決定するものとする。」委員会の活発な議論を保障する、こういう考えを基本

的に持っております。

- 議長（寺林俊幸） みなさんからそれぞれのお考えをお聞きいたしました。本来であれば、議会運営委員会の中で、検討を進めている議員定数のあり方でありますけれども、やはり、多様なご意見がある中で、ここでしっかりとみなさんと議論を交わすことが必要だろうと考えているわけですが、結論には至らないということを十分に理解しながら、本日時間の都合上、ここまでとしたいところですが、本日の議会運営委員会でもお示しをさせていただきましたが、しっかりとした議論の中にこの議員定数をどうすべきかということを進めていく上で、さらに時間をとって、さまざまなご意見をうかがいながら、改めて定数の数についてもということで考えておりますけれども、改めて日にちを設定して、再度全員協議会を開くということでみなさん、よろしいでしょうか。

石川議員。

- 10番（石川康弘） 今回みなさんからご意見を伺いました。私も、持って帰って熟慮したいと思っておりますけれども、それぞれ聞いた上で、意見が修正されることもあると思うのですが、事前に個々が文章として、作成して期限を設けて提出していただいて、それを無記名で提出してもらって、それを公表してその中でまたそれぞれが考えて、意見を聴取していったらどうかなと思うのですが、いかがでしょうか。どうしても必要ないかもしれないですが、結構家に帰って一人で考えると、こういう意見だったけど、修正したほうがいいのか考えるじゃないですか。ここで皆さんの話を聞いて、ある程度、それぞれの会派でも話し合っているでしょうけれども、誰かに寄った意見を言わなきゃいけないこともあるかもしれないですよ。本当に自分の意見を作成して、文章として、提出したほうが先に進みやすいと思っております。
- 議長（寺林俊幸） ただ今、石川議員から各議員から無記名での改めての考え方をお伺いしてはどうかということですが、私はここでお一人ひとりの議員のみなさまから直接お話をお聞きしているわけでありまして、無記名というようなことは必要ないのではないかと思います。さらに、後日改めてそれぞれみなさんの生の声の中でのご意見を伺いながら、今後それをもって議会運営委員会で検討を進めていかなければならないと思っておりますので、この議場の中で、みなさんから直接ご意見を伺って、議論を交わすということでいかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

- 議長（寺林俊幸） 次回の全員協議会でありますけれども、3月12日に本会議がありますけれども、本会議終了後ということでよろしいでしょうか。

（よろしいの声あり）

- 議長（寺林俊幸） それでは、次回の全員協議会は3月12日本会議終了後ということで進めてまいりたいと思っております。またそれまで、改めてお考えをまとめていただきますようお願いを申し上げます。本日はこれをもって全員協議会を閉会いたします。